

# 『東方から来た博士たちの捧げ物』

'21/12/26

聖書箇所: マタイの福音書 2 章 1-12 節 (新約 p.2-)

ひょっとしたら、今日皆さんは、週報などを見て、「あれっ、もうクリスマスは終わったのに…」とっておられるかも知れません。しかし、考えてみますと、クリスマスは、つい昨日のことですし、また、今日のみことばに出てくる、東方の博士たちがイエス様のところを訪れたのは、イエス様がお生まれになった、しばらく後のことでしたね？…ま、そういう意味におきまして、今日これから学びみことばは、まさにクリスマスの後に学ぶべき、みことばであると言って良いと思います。

## 命題: 東方の博士たちが捧げた物は、どのようなものだったのでしょうか？

まあ、そういったことは別として…、もしも、皆さんが、誰かに何かプレゼントを贈ろうとされた場合、どんなことを考えられます？ 恐らくは、相手のことを考えて、どんな贈り物が相手にふさわしいか？ どんなものが喜ばれるだろうか？ そういったことを考えられますよね？ それはつまり…、言い換えれば、その贈り物には、必ず、何らかのメッセージが含まれているということではないでしょうか？…それと同じように、今日のみことばに出てくる、『東方の博士たち』も、イエス・キリストに“ふさわしいもの”を捧げました。

今日は、今から約 2000 年前の、イエス様がお生まれになった時、『東方の博士たち』が、イエス様にお捧げた物を見ていきます。そうすることによって、彼らがイエス様に対して持っていた理解というものをご一緒に観察していきたいと思えます。願わくは、今日このメッセージを聞いてくださった皆さんが、イエス様に対する正しい理解をもって、益々、その神様の前に価値ある人生を送っていくことができますことを願います。まずは、今日のみことばである、マタイ 2:1-12 を読ませていただきます。

- 1 イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。
- 2 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」
- 3 それを聞いて、ヘロデ王は恐れ感った。エルサレム中の人も王と同様であった。
- 4 そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。
- 5 彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです。」
- 6 『ユダの地、ベツレヘム。あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。わたしの民イスラエルを治める支配者が、あなたから出るのだから。』
- 7 そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、彼らから星の出現の時間を突き止めた。
- 8 そして、こう言って彼らをベツレヘムに送った。「行って幼子のことを詳しく調べ、わかったら知らせてほしい。私も行って拝むから。」
- 9 彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ、東方で見た星が彼らを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上にとどまった。
- 10 その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。
- 11 そしてその家に入って、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。
- 12 それから、夢でヘロデのところへ戻るなという戒めを受けたので、別の道から自分の国へ帰って行った。

## I・黄金 ⇒ 王 をイメージさせる！

東方の博士たちがイエス様に捧げたもの…。その1つ目は、“黄金”でありました。…さて、博士たちがお捧げた『黄金』には、どのようなメッセージ…、どのような意味が込められていたのでしょうか？ まずは、そのことを見ていきましょう。

### ● 黄金と王との関係

皆さんもよくご存知のように、黄金とは、「金属の王様」とも言われるような…、価値のある物質です。そのことは、現代も…、また、この当時も、あまり変わらないようです。金というものは、産出量があまり多くないことも理由としてあるでしょうが…、錆びたりしないので…、あの独特の黄金色(コガネイロ)の光沢を保ち続けます。それゆえ、古代から、黄金は世界各地で重んじられ…、財宝や装飾品として使われてきました。そういったことは、古代エジプトの装飾品や古代中国でも金が愛されて…、王族たちが愛用したことで明らかだと思えます。また、聖書の中でも、この『金』(キン)に関する記述は、創世記の第2章から出てきますし…、あのアブラハムも大量の金を所有していたということも、みことばは教えます。

そういったこともあって、旧約聖書全体を見ても、「金とは王にふさわしいもの」として描かれています。そのことを象徴する箇所として、II サムエル記 12:29-30 には、こうあります。『29 そこでダビデは民のすべてを集めて、ラバに進んで行き、これと戦って、攻め取った。30 彼は彼らの王の冠をその頭から取った。その重さは金一タラントで、宝石がはめ込まれていた。その冠はダビデの頭に置かれた。…』と続きます。⇒ 皆さん、聞いてくださいました？ ダビデ王はラバの町を攻め取った時、その町の王から金の冠を奪い、それを自分の頭に被ったわけですが…、その重さが、なんと『金一タラント』だったと言うのです。金1タラントとは、今の重さで言うと、30kg 以上にもなります。恐らく、これは今で言うところのチャンピオンベルトのような…、つまりは象徴的なもので…、本来の用途ではなく、権威を誇示するためのものであると考えられます。つまり、ダビデも、その 30kg 以上もあるような王冠をずっと被っていたのではなく、自分がこの町の王位に着いたということを示すために、一時的に、この金の王冠を被ったと考えられます。

それだけではなく、例えば、ダニエル書 3 章に出てくる、あの『ネブカデネザル王は金の像を造った』(ダニエル 3:1)ということが記されてあります。それを拝まない、『火の燃える炉』に投げ込まれるという…、あの像は、金で作られていたのです。しかし、あの当時、3人の若者たちは、「自分たちが信じ、仕えるべき御方は、すべてを造られた真の神様だけだ！」ということで、そのような金の像を拜もうとはしませんでした…。

ま、このように、古くから、黄金とは王にふさわしいものとして考えられていました。この、『東方の博士たち』は、そういったような『黄金』をたまたま、手に入れたものではありません。彼らは、『黄金、乳香、没薬』を前もって用意して…、それらを自分たちで持ってきたのです！ 11 節に書かれてある、『宝の箱をあけて…』という表現が、そういったことをサポートします。

『東方の博士たち』は、この『幼子』であるイエス様を、自分の仕えるべき王として信じ…、また、それを受け入れていたが故に、はるばる旅をして…、高価な黄金を捧げたのです。そして、この時に、博士たちが捧げた高価な品々が、その後、イエス様の一家がヘロデの魔の手から逃げるために、エジプトへ脱出し、そこでヘロデが亡くなるまで滞在するための費用になったと思われる。マタイ 2:15 の、『わたしはエジプトから、わたしの子を呼び出した。』という預言は、紀元前 8 世紀に活躍した、預言者ホセアの書き記した言葉です。実は、そういったことさえも、すべて神は御存知で…、すべて神が御計画されていたことであつたのです。この時の、ヘロデ王が亡くなったのが、紀元前 4 年ということが歴史的に分かっているので、イエス様の誕生は、それよりも前、恐らく、紀元前 5-6 年頃と思われる。確かに、西暦 0 年はイエス様

の誕生を紀元にしていますが、特に、それが定められた6世紀の頃は、年代が今よりも更に不確かであったため、このような若干のずれがあるのです。

### ●東方の博士たちの正体とは？

ところで、一体、じゃあ、この『**東方の博士たち**』は、何者で、どこから来たのでしょうか？⇒残念ながら、この『**東方**』という地域が、具体的に、どこを指すのか明らかではありません。しかし、幾つかの“ヒント”があります。まず、ここで、『**博士**』と訳されてある言葉ですが、これはギリシヤ語の「マゴス」(μάγος)という言葉で、文脈によっては、「魔術師」などを指したりすることもあるのですが、恐らく、ここでは肯定的に(=良い意味で)使われてありますので、占星術(=星占いの類)などを使った、メディアの神官(=神に仕えた人々)か、あるいは、バビロンやペルシヤの高官(=高い地位の人々)などを指すと考えられています。いずれにしても、そういった国々は、かつて、ユダヤ人たちが捕囚などで深く関わったことから、ある程度、救い主の誕生に関する預言を知っていた可能性があったと考えられています。

また、彼らの知識や…、その持ってきた贈り物、また、ヘロデ王が彼らに対して、随分親切に対応していることなどを考えると、彼らが非常に高貴な人物たちで、大きな国がバックにあつたのではないかと、このようなことを窺い知ることができます。…それ故に、間違いなく、彼らは大人数で来たはずで、よく、降誕劇で、「3人の博士たち」だけがイエス様を訪ねたように演じられますが、あれは、捧げ物が3つであったことから来ている、根拠のない人数で…、実際は、もっと多くのお供を連れていたであろうことは、まず間違いありません。

さて…、彼らは、はるか遠く、東の国から、何百キロも旅を続けて…、はるばるやってきました。一体、どれ程の時間をかけてやってきたのでしょうか？⇒恐らくは、1年ほどです。これも、よく降誕劇などでは、羊飼いたちと、『**東方の博士たち**』と一緒にイエス様を礼拝しているシーンがありますが、それも誇張で、事実ではありません。聖書をよく観察していただきますと、マタイ2章の記事と、ルカ2章の記事とは、いろんな違いを見付けることができます。

まず、マタイ2章では、イエス様のことを『**幼子**』(παιδίον)と表現しています。しかし、ルカ2:16では、『**みどりご**』(βρέφος)とあります。日本語で、「みどりご」と言った場合、もう少し大きくなった子どものことを指す場合もあるようですが、ここで使われているギリシヤ語の言葉は、「胎児、あるいは、生まれたばかりの赤ん坊…」を指します。明らかに違うわけです。

また、マタイ2:11では、イエス様のおられた場所は、『**家**』(οἰκία)とあります。しかし、皆さんもご存知の通り、イエス様は家畜小屋でお生まれになりました。実際に、聖書では、「家畜小屋」と書かれている訳ではありませんが、ルカ2:7で、**生まれたばかりのイエス様を、『…それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らがいる場所がなかったからである。』**とあることから、十分、察しがつきます。

最後に、ヘロデ王は、マタイ2:16にあるように、**自分が、『…博士たちにだまされたことがわかった、非常におこって、人をやって、ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男の子をひとり残らず殺させた。その年齢は博士たちから突き止めておいた時間から割り出したのである。』**とあるように、イエス様のお生まれになった時期と、博士たちが尋ねて来た時期とは、「かなりのずれ」があつたことが分かります。ひょっとしたら、これは、博士たちが、『**東のほうでその方の星を見た**』(マタイ2:2)と、マタイ2:2にあります、イエス様がお生まれになった晩、『**主の使いが彼ら(=羊飼いの)のところに来て、主の栄光が回りを照らした**』(ルカ2:9)という…、その時の光と何らかの関係があるのかも知れません。…と言うのも、それを見た博士たちが、それから用意を整えて…、何百キロもの旅をしてきたのなら、時間的にもまあまあ合うからです。

確かに、聖書は、占星術や星占いなどの類を禁じています。申命記18章などを見ても、明らかに、そういったことが偽りの神々や良くない動機に繋がっていることが分かります。しかし、神様は、この時に限っては、そういった方法を使って、東方から博士たちが来ることを「良し」とされました。それは、彼らの信仰の故です。彼らの知識は、決して、十分なものではありませんでした。しかし、神は、東方の博士たちの思いを御覧になられたのです。…そのことが、2つ目の捧げ物にも表われています。

## II. 乳香 ⇒ 神 をイメージさせる！

東方の博士たちがイエス様にささげたもの…、その第2番目は、“乳香”でありました。…当然、これにも意味があります。当時、乳香は、神様へ捧げられることもあつた…、これまた非常に高価なものでした。…何と、『**東方の博士たち**』は、お生まれになったイエス様が、神であられると理解していたのです。

### ●乳香とは？

まず、皆さんは乳香が何であるかご存知でしょうか？⇒乳香とは、かんらん科の植物から取ることできる樹脂の一種だそうです。非常に良い香りがするので、当時は高級な香料として使われていたそうで、現在でも、乳香は、香水やオーデコロンなどの材料として、広く使われているそうです。

これは、**レビ記の2章などを見ても、『穀物のささげ物』**と一緒に、神様に対して捧げられています。…というのも、この乳香が放つ煙は、神様とその神様を礼拝する者たちを結ぶもので、それは神様のもの、あるいは、神へ通じるものと考えられていたからです。ですから、古くは、こういった乳香は、神様との仲介者であると考えられていた…、王だけにしか使うことが許されていなかったそうです。こういった乳香を捧げることができたというのも、『**東方の博士たち**』が高貴な人物であったことが窺えます。

### ●博士たちは信仰を持っていた？

そのような、『**東方の博士たち**』が信仰を持っていたとする、根拠があります。今日のみことばの**2節**に書かれてあるように、**彼らは、エルサレムに来て、『“ユダヤ人の王として”お生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。』**と言います。しかし、彼らは、自分たちの目の前にいるはずの…、当時のユダヤ人の王であった、ヘロデ王では満足しませんでした。博士たちは、わずか1年かそこら前に生まれたばかりの…、この先どうなるか分からないような幼子をわざわざ探し出して、その幼子を礼拝し、捧げ物を捧げようとするのです。また、どうぞ、**4節に注目してください。『そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いました。』**とありますでしょ！『**東方の博士たち**』が探し求めていたのは、ただの「王様」ではありませんでした。本当の王様…、王の中の王…、救い主(=キリスト)であられるお方であったのです！

だから、その誕生が、聖書に預言されていたのです！『**祭司長たち、学者たち**』が、ヘロデ王に申し上げた6節の箇所は、旧約聖書のミカ書からの引用です。何と、イエス様がお生まれになられる700年も前に、その誕生が預言されていたのです！「約束の救い主(=キリスト)は、ベツレヘムで生まれる」って。だから、博士たちは、**11節にあるように、イエス様を見て、『ひれ伏して拝んだ』**のです。一体、誰が、わずか1歳になるかどうかの幼子に高価な品々を捧げ、礼拝を捧げるのでしょうか？…彼らは、その幼かったイエス様が真の神であられることを…、自分たちの救い主であられることを知っていたのです。でなければ、一体誰が、1歳ほどの子どもにひれ伏して…、礼拝を捧げるのでしょうか！…彼らは真の信仰を持っておりました。だから、彼らは、大変な犠牲を払って、イエス様に乳香の捧げ物を捧げるべく…、はるばる1年もの間、旅をして、やって来たのです…。

### Ⅲ・ 没薬 ⇒ 死 をイメージさせる！

東方の博士たちがイエス様にささげた3つ目のもの…、それは、“没薬”でありました。実は、これこそが、博士たちが、救い主に対する正しい理解を持っていたと考えられる捧げ物であります。…この没薬もまた、乳香ほどではなくても高価なものでした。…というのも、没薬は、この当時、香料や薬として使えただけでなく…、亡くなった人の体に塗って、そうして葬る、というように使われていたからです。

#### ● 没薬とは？

ですから、例えば、ヨハネ 19:39-40 には、こうあります。『39 前に、夜イエスのところに来たニコデモも、“没薬”とアロエを混ぜ合わせたものをおよそ三十キログラムばかり持って、やって来た。40 そこで、彼らはイエスのからだを取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従って、それを香料といっしょに垂麻布で巻いた。』⇒ 実は、この没薬というものは、古代エジプトの時代から、高貴な人物をミイラとして葬る時に、決して欠かすことのできないものであったそうです。ですから、この没薬と、死人(=亡くなった者)とは非常に強い結びつきがあったのです。

『東方の博士たち』は、自分たちの限りある旧約聖書の知識や自分たちの国の伝説のようなものから、救い主が、自分たちのために、特別な死を経験して下さるということ、ある程度、知っていたと考えられます。聖書には載っていませんが、12 節にあるように、ひょっとしたら、夢か、御使いか、あるいは、何かの方法で、特別な知識を持っていたのかも知れません。いずれにしても、博士たちは、イエス様に、はるばる没薬を捧げにやって来たのです。

#### ● イエス様のメッセージが正しかったという証拠・根拠

今の私たちは、この聖書のみことばから…、また、歴史の上からも、救い主のことを知っています。イエス・キリストは、今日の聖書記事の出来事から約30年後…、十字架にかかって死なれました。その時、十字架の上には、罪状書きとして、「ユダヤ人の王」と書かれました(マタイ 27:37)。また、イエス様のメッセージは、『わたし(こそ)が道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』(ヨハネ 14:6) というものでした。…つまりは、このイエス様を信じ、受け入れることなくして、誰一人、救われることは有り得ないというものでした。

イエス様のメッセージが正しかったという証拠は、何より、その「復活」です。イエス様は、約束通りに、十字架の死にさえも勝利されて、その3日目によみがえられたのです！ 一体、どこの誰が、そんなことをできるでしょう？ 復活こそ、イエス様が、正真正銘、真の神であられたという証拠です。だから、イエス様の弟子たちは、その復活を見てから、死をも恐れない者となって、このイエス様の復活と、救いの道とを宣べ伝え続けたのです！ …イエス様の弟子であり、イエス様の十字架と復活の証人でもあった、ペテロはこう訴えます。『この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。』(使徒 4:12)

⇒このペテロは言います、この方、つまり、「イエス・キリスト以外に救いはない！」って…。世界中で、この方以外に、私やあなたの救いを成就して下さった方はおられません。イエス様こそは、その誕生から、はるか以前に預言されていた約束の救い主なのです。

それは、まさしく、今日、私たちが見たメッセージそのものでした…。誰でも、もし、このイエス・キリストを

信じるなら救われます。しかし、もし、この救い主を拒むなら…、裁かれます。あなたの犯した数々の罪や過ちはあなた自身で清算しないとはいけません。それは、永遠に続く地獄での裁きであり…、永遠の苦しみです。イエス様は、あなたが、そのような苦しみの場所に行くことの無いように、私やあなたの身代わりとなって、十字架で最高の苦しみをお受けになってくださったのです。まだ、イエス様を信じておられない皆さん…、どうぞ、このイエス様を、あなたの神様として…、また、救い主として信じ、受け入れてくださいますように、心からお勧めいたします。

### Ⅳ・ 神様への愛 ⇒ 神が最も喜んでくださるもの！

実は、東方の博士たちがイエス様に捧げた物は、①黄金、②乳香、③没薬だけではなくありませんでした…。彼らは、もう1つ、大事な捧げ物を捧げたのです。しかも、実は、それこそが、神様が最も喜んでくださる捧げ物でありました…。それを最後に見ていききたいと思います。

#### ● 博士たちが取った行動

今日のみことばをご覧くださいと、1 節に、『イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき…』とあります。実は、このヘロデ王が、大変な“厄介者”でありました…。どうぞ、今日の個所のすぐ後の、13-16 節をご覧ください。『13 彼らが帰って行ったとき、見よ、主の使いが夢でヨセフに現れて言った。「立って、幼子とその母を連れ、エジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を捜し出して殺そうとしています。」14 そこで、ヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに立ちのき、15 ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者を通して、「わたしはエジプトから、わたしの子を呼び出した」と言われた事が成就するためであった。16 その後、ヘロデは、博士たちにだまされたことがわかったと、非常におこって、人をやって、ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男の子をひとり残らず殺させた。その年齢は博士たちから突き止めておいた時間から割り出したのである。』

⇒実は、この個所からも察することができるように…、晩年のヘロデ王は、大変な猜疑心の強い人物になっていたことが、歴史的にも知られています。晩年のヘロデ王は、自分の就いていた王という地位に、あまりにも強く固執し…、誰かが自分の代わりに王になるかも知れないと思うと、その人物を抹殺してしまったようで…、彼はとうとう、自分の妻や息子2人も殺してしまつたほど、猜疑心に振り回されてしまつたそうです。そうして、彼は最期には、誰も、何も信じる事ができないような状態に陥ってしまつて、失意の中で死んでいくわけです。

まさしく、イエス様がお生まれになったのは、このヘロデ王が亡くなる1-2年ほど前のことでした。だから、皆さんも分かってくださいますよね？ …このヘロデ王が、東方から来た博士たちに、8 節、「幼子について分かたら知らせてもらいたい！」と言つたのは、初めから、その幼子のことも殺すつもりでいたはずなのです。

でも！ 天の神様は、すべてを御存知でした。だから、今日のみことばの最後、12 節にあるように、神様は、夢を使って、東方の博士たちに、「ヘロデの所へ戻るな！」ということ伝えて、博士たちは、その神様のみことばに従っていったのです。

皆さん、分かってくださいます？ …この時、博士たちが捧げたのは、①黄金、②乳香、③没薬といった高価な捧げ物だけではなくありませんでした。彼らは、天の神様が最も喜んでくださる捧げ物を捧げたのです！ …それは何でしょう？ ⇒それは、神様への愛…、言い換えれば、神様のみことばに従う！ ということでもあります。

多分、皆さんはご存知だろうと思います。旧約の時代、天の神様は預言者サムエルを通して、サウル王に対して、「アマレク人と、そのすべてのものを聖絶せよ！牛や羊も、神の名において、その命を絶ちなさい！」ということ命じられました（Iサムエル記 15 章）。…しかし、サウル王は、神様のみこころに従わず、「アマレク人の王アガグを生け捕りにして、肥えた羊や牛の最も良いもの、子羊とすべての最も良いものを惜しみ、これらを聖絶するのを好まず、ただ、つまらない、値打ちのないものだけを聖絶した」のです。

そんなサウル王に対して、預言者サムエルは、こう諭します、それが、Iサムエル 15:22 のみことばです。『…主は【主】の御声に聞き従うことほどに、全焼のいけにえや、その他のいけにえを喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。』って…。

そのことを預言者サムエルから指摘されたサウル王は悔い改めたように見えます。しかし、「時すでに遅し」。その後、サウル王は、預言者サムエルに、「どうか、私の罪を赦して、一緒に帰ってください」と請い願いますが、サムエルは、こう告げます。Iサムエル 15:26、『…私はあなたといっしょに帰りません。あなたが【主】のこぼを退けたので、【主】もあなたをイスラエルの王位から退けたからです。』って…。

このように、天の神様は、私たちの捧げる捧げ物以上に、私たちの心を…、あるいは、私たちの行ないを御覧になっておられます！…この時、東方の博士たちは、ヘロデに従うよりも、神様のみこころに従いました。…もしも、博士たちが帰ろうとした、その途中で、ヘロデ王の手の者に見つかったら、大変なことになっていたでしょう…。それでも、博士たちは、神様のみこころを優先したのです！…皆さん！これが、博士たちが本物の信仰を持っていた証拠じゃないでしょうか！

### ● 神様が与えてくださる喜び

今日、最後に、皆さんに注目していただきたいみことばは、10 節の部分です。ここには、『その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。』と記されてありますでしょ？…実は、ここで、『この上もなく喜んだ…』と訳されてあるところには、原語のギリシヤ語を見てみると、かなり、強調されてあることが分かります。…実は、この部分を原語で、どう書かれてあるか説明いたしますと、まず、「その星を見て、彼らは喜んだ」と書かれてあるのに、さらにその後、もう1度、「喜び」+形容詞の「この上もなく」+副詞の「非常に、激しく…」という単語が使われてあるのです。…つまり、この時、「東方から来た博士たちが、もう、飛び上がるほど、大喜びした！」ということ、このみことばは教えてくれているのです。

いえ、この博士たちだけではありません。…例えば、イエス様がお生まれになった時、その降誕を告げられた羊飼いたちも、飼葉おけに寝ておられるイエス様を見つけて、神をあがめました。また、「主のキリストを見るまでは、決して死なない」という、聖霊のお告げを受けていた、あのシメオンもそうでした。いえ、聖書のみことばを見てみると、多くの信仰者たちが喜び…、感謝をしているのは、神様のみこころがなされ…、自分が、その神様のみこころに従うことができた時、神様に用いられた時でありました。…でしょ！

この世の中は教えます、「あなたの願いが叶えば叶うほど、あなたは幸せになる！あなたが何かを得たら、その分あなたの喜びは増すでしょう！」って…。でも、それは本当でしょうか？…今日のみことばを見てみると、東方から来た博士たちは、まだ幼子であったイエス様に捧げ物を捧げた時に、大喜びをしています…。

イエス様は、弟子たちに何と教えてくださいました？…使徒 20:35、『受けるよりも 与えるほう が幸いである』でしょ！…もしも、皆さんがまだ今も、自分が受けることばかり…、人から何か与えられることばかりを願っておられるなら、それは、幼子の信仰だと考えてください。…主にあって成熟させられた信仰者は、受けるよりも、与えることで、祝されるのです。

### < 励ましの言葉 >

つい最近も、ある有名な芸能人が、恐らくは、自分自身で、その命を絶つたであろうことが報道されていきました。彼女（神田沙也加）は、まだ、35 歳という若さで、たくさんの才能にも溢れていました。いえ、彼女だけではありません。昨年には、竹内結子さんと三浦春馬さんといった、有名な俳優さんたちが、自らの命を絶つておられます…。

皆さん、知っています？…今、若者たちの間で、「オーバードーズ」という言葉や行為が流行りつつありますでしょ？「オーバードーズ」の「ドーズ(dose)」と言いますのは、所謂、「服用量」のことで、つまり、服用量を大幅に超えて、たくさんの市販薬などを服用することで、恍惚状態になったり、現実逃避をするわけです。…ここ日本では、比較的最近になってから、問題になってきたように思いますが、欧米では、もっと前から、かなり、深刻な問題になっています。…恐らく、ここ日本でも、欧米のように、今後は、もっと深刻な問題になっていくと思われます。…それほど、若者たちは満たされていない…、何かに飢えているのではないのでしょうか？

しかし！（聖書を持ち上げて）この聖書には、そういったような偽物の幸福感では無い…、本物の幸いである罪の赦しや本当の祝福があります！…そういったことを教えてあげられるのは、先に救われた私たちクリスチャンだけなのです！…どうか、多くの若者たちが今、本当の幸福や祝福を知らないからこそ、私たちが、本物の神様を知って、その神様に従っていくことで与えられる祝福を…、恵みを伝えていく者であってください！

そうして、まだ、イエス様を信じておられない皆さん…。真の神様は、あなたに、本物の喜びを与えることができるし…、あなたの人生を本当に価値あるものへと変えてくださいます。どうか、1日も早く、これまでのあなたの罪を悔い改めて、この神様を信じ従う者へと変えられてください！…最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。